

百名山自然ガイド

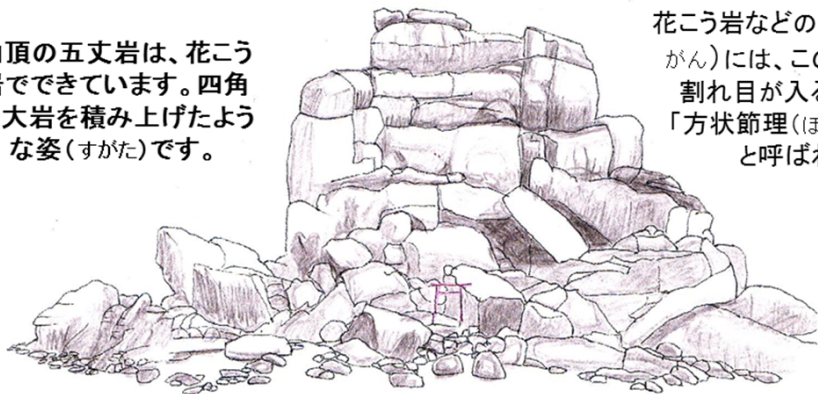
きん ぶ さん
金峰山

山頂の標高:2599m

#百名山自然ガイド #金峰山

山頂の大きな岩：五丈岩(ごじょういわ)

山頂の五丈岩は、花こう岩でできています。四角い大岩を積み上げたような姿(すがた)です。



花こう岩などの深成岩(しんせいがん)には、このような四角い割れ目が入ることがあり、「方状節理(ほうじょうせつり)」と呼ばれます。

金峰山といえば、何といても山頂の五丈岩がそのシンボルです(五丈石とも書きます)。尾根道を登りきると、そこに待っているのが五丈岩です。

金峰山は、3世紀頃?には既に祈りの場所だったようですが、7世紀になると、奈良県吉野の修験道(しゅげんどう)の聖地、金峯山寺(きんぷせんじ)から蔵王権現(ざおうごんげん)の像が伝わり、修験道の場所としても栄えました。金峰山という山の名前は、これにちなんだものと言われます。

金峰山 と 五丈岩

○金峰山(きんぷさん、長野県側では「きんぽうさん」と呼ばれることも。古くは、金丸山、金風山などという呼び名も)の山頂にある三角点の高さは2595mと測られています。しかし、そのわきには岩が積み上がったピークがあり、その高さ、2599mが金峰山の高さとされることが多いようです。ただし、三角点の数十m南西にある五丈岩(ごじょういわ)の方が、それよりも少し高いという話もあります。

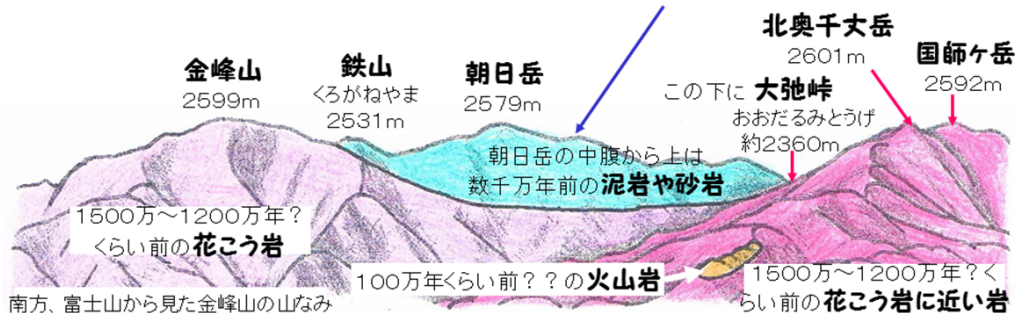
○五丈岩には、見上げる人を圧倒(あつとう)する迫力(はくりよく)があり、古代から神様にお祈りをする場所になっていたようです。古墳(こふん)時代の3世紀頃?、たくさんの人が亡くなってしまう病気が大流行したらしいのですが、人々のくらしが良くなるよう、当時の天皇の指示で、この場所でお祈りが行われたと言われます。

○五丈岩には、枯(か)れることのない泉が湧(わ)いているという、まことしやかな言い伝えも残されています。日照(ひで)りで困ったとき、雨乞(あまご)いをする場所としても、人々に頼りにされてきました。

花こう岩の山：金峰山

伊豆半島は、元々南方にあった岩盤が移動してきて本州に付け加わった、と考えられています。金峰山の花こう岩も、同じように南から動いてきた岩盤ではないか、という考えもあるそうです。

朝日岳の中腹から上の泥岩や砂岩は、数千万年前、陸上では恐竜が活躍していた時代の海に積もった地層です。その後のプレートの動きによって本州へ押しつけられ、本州の一部になりました。



金峰山への東側の入口は大弛峠(おおだるみとうげ)ですが、峠付近の岩は花こう岩です。しかし、登り始めるとすぐに泥岩や砂岩に変わります。金峰山の花こう岩は、この泥岩や砂岩の下に湧き上がってきて固まったものですが、やがて上の岩が大きく削られ、花こう岩が地表に現れることになりました。

1500万年前の謎(なぜ)？

○金峰山は、1500万～1200万年くらい前に花こう岩質のマグマが固まってできた山です。甲府盆地の北東、東、南東には同じ頃にできた花こう岩やそれに近い岩(花こうせん緑岩やトータル岩)が大きく広がっていて、大規模なマグマの活動が起きたことがうかがえます。さらに、削られてしまったり新しい地層でおおわれたりして甲府盆地の中のことはよくわかりませんが、盆地西側の甲斐(かい)駒ヶ岳や鳳凰(ほうおう)三山の岩も、同じ頃の花こう岩やそれに近い岩です。

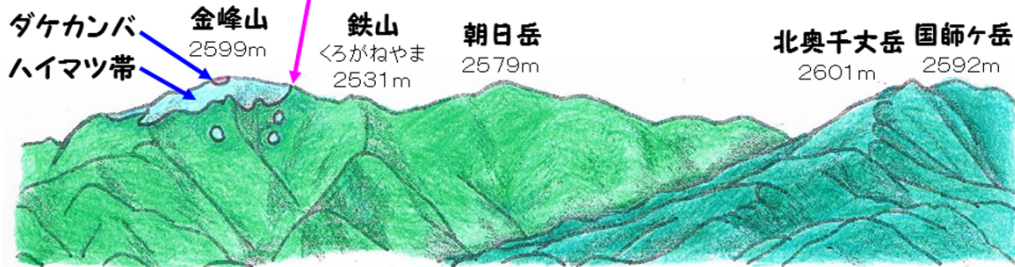
○それよりも前、2500万年くらい昔には、日本を乗せている岩盤は、まだアジア大陸の東の端にありました。ところが、2000万年から1500万年前くらいにかけて、日本海が開くという大事件が起き、日本列島がアジア大陸から切り離されたと考えられています。

○金峰山一帯でマグマの活動が起きたのは、日本海が開くのがほぼ終わる頃です。どちらかがもう一方を引き起こしたのか、たまたま時期が近かったただけなのか、興味が持たれます。

山頂に広がるハイマツ帯

シラビソやコメツガなどの林から抜けてハイマツ帯に変わる所には、花こう岩の大小の岩が積み重なった、高さ2～3mの崖(がけ)ができています。

金峰山には、花こう岩があちこちに塔(とう)のように突き出し、また、山頂の周辺では、くずれた岩が斜面を作っています。岩だらけでは高い木は育たずハイマツ帯が広がっています。



高い山に氷河が生じた時代、もう少し低い山でも、岩の間に入り込んだ水が氷結を繰り返して、岩を砕いたり、斜面に沿って下方に運んだりして独特の地形を作りました。2万年ほど前の寒い時代、金峰山でもそういう働きが進み、森林限界になっている崖ができたのではないかと考えられています。

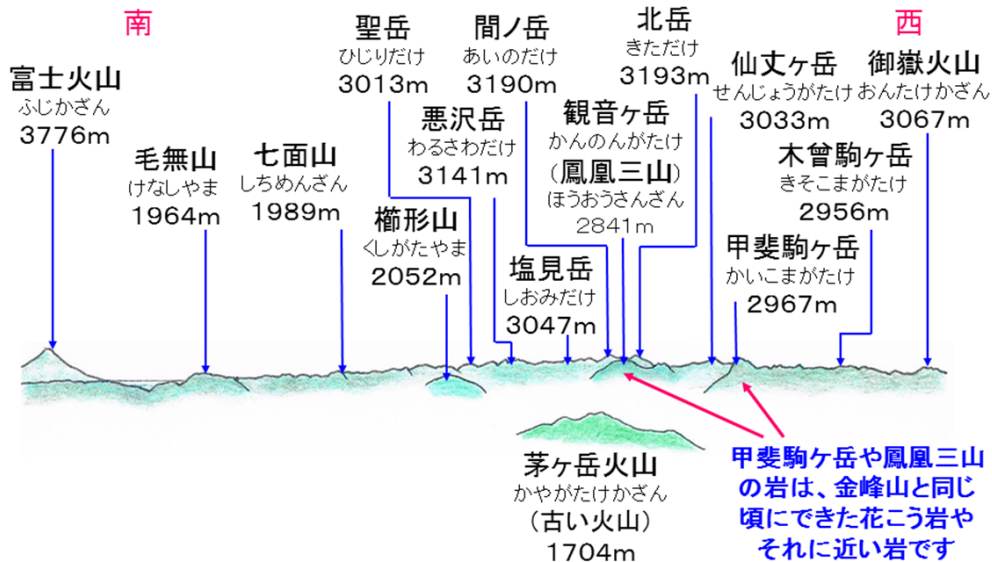
森林限界が低い金峰山

○金峰山では、森林限界の高さが2400～2500mくらいのところがあり、そこから上にはハイマツ帯が広がっています。近くにある金峰山と同じくらいの高さの山々(朝日岳2579m、北奥千丈岳2601m、国師ヶ岳2592mなど)では、ほぼ山頂までシラビソやコメツガなどの森に包まれていますから、金峰山の森林限界は、それよりだいぶ低いことになります。

○ハイマツの斜面が広がる金峰山では、そのおかげで、360度の大展望が開けています。そして、ハイマツの間に咲くハクサンシャクナゲや、いろいろな高山植物との出会いも大きな楽しみです。

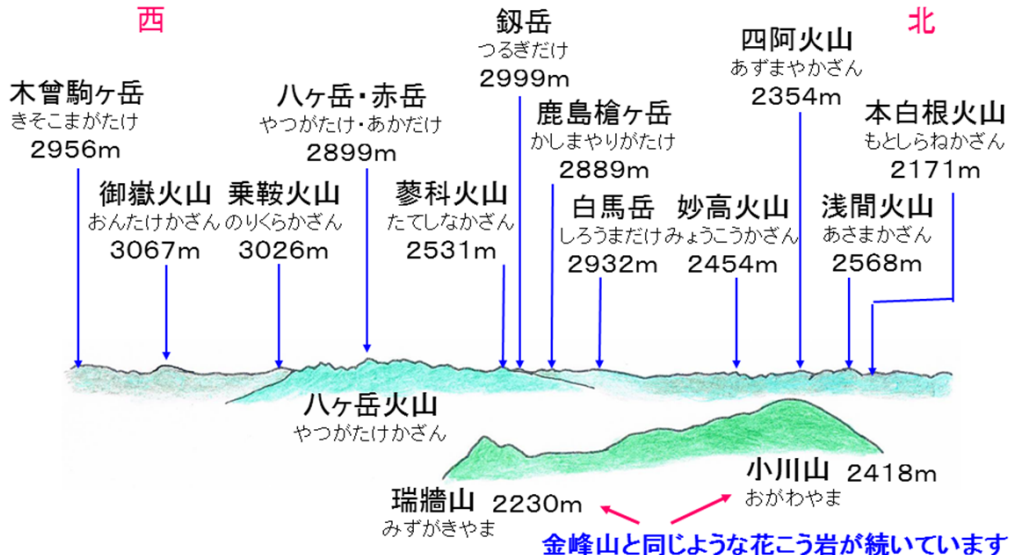
○金峰山のハイマツ帯には、コメツガやダケカンバなどの木も、ごく低い背たけになって入り込んでいます。特に最上部の山頂付近では、岩の間に小さなダケカンバがたくさん育っていますが、これは、他の山のハイマツ帯ではあまり見られないことです。岩の斜面が安定して土が厚みを増せば、やがて森に包まれてしまうのかもしれない。

山頂からの展望 南～西



森林限界から抜け出している金峰山の山頂部は、晴れてさえいれば、360度の展望が開けています(展望図では、上下方向を1.5倍に強調してあります)。

山頂からの展望 西～北

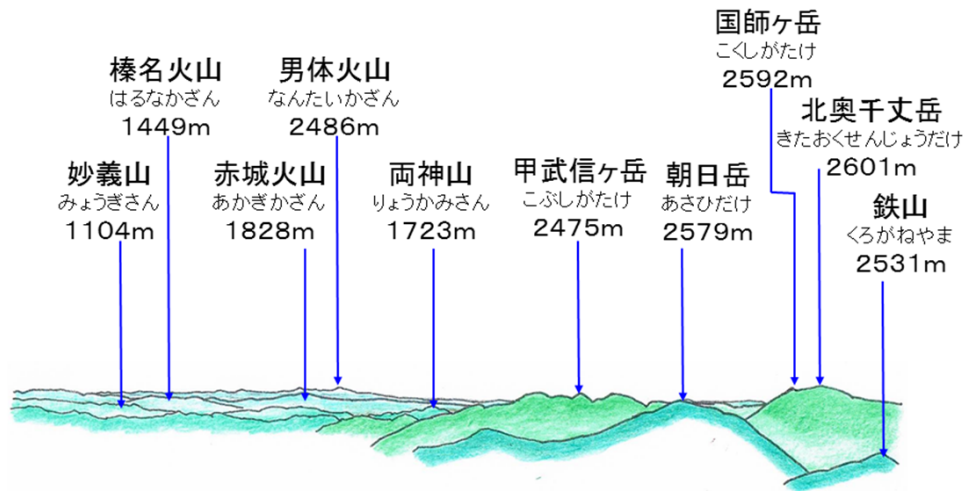


金峰山がある場所はフォッサマグナのまっただ中。フォッサマグナには大きな溝という意味がありますが、その内外には、たくさんの火山が生じています

山頂からの展望 北～東

北

東

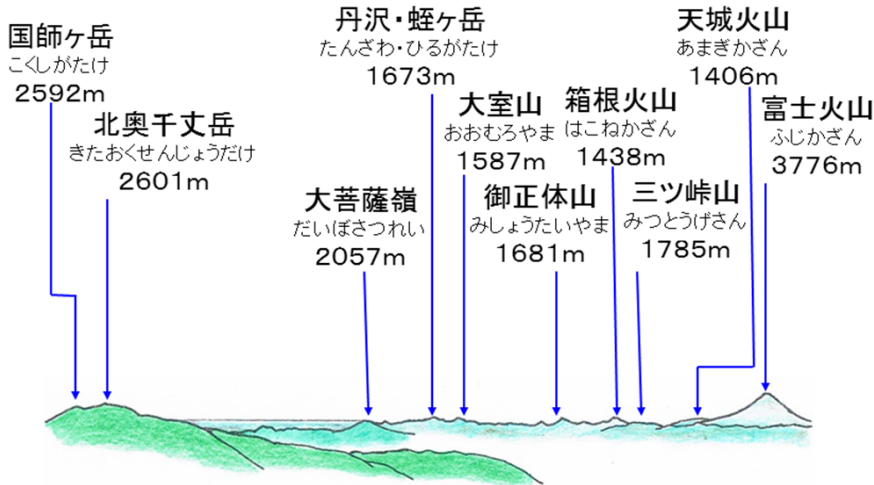


北～東には北関東や秩父の山が並びます。榛名山まで約70km、赤城山まで約90km、男体山なら120kmを越えます。今日はどこまで見えるでしょう。

山頂からの展望 東～南

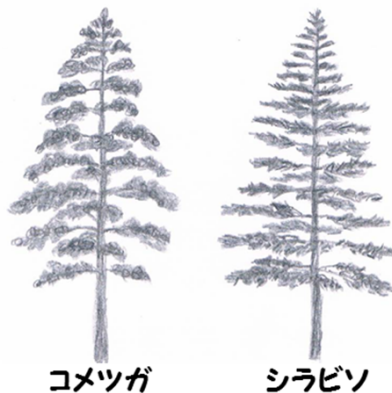
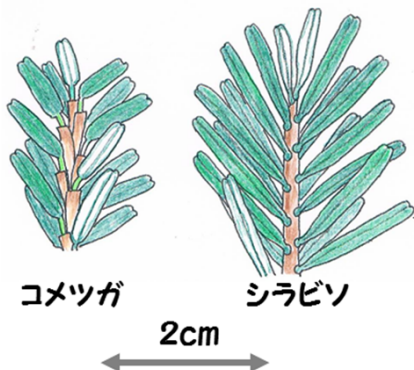
東

南



東～南に続くのは山梨南部や神奈川の山々ですが、何といたっても飛び抜けて高いのは富士山です。独特の雲がわく所ですから、それにも注目です。

2000m級の山の林：コメツガとシラビソ



どちらも細長い葉ですが、コメツガは1cm内外、シラビソは2cm内外の長さです。一方、シラビソにごく近い仲間にオオシラビソ(別名アオモリトドマツ)がありますが、葉が茎に沿って付いていて、茎がよく見えないという違いがあります。

条件が良ければ、高さ20～30mにもなる木です。しかしコメツガは、水分や栄養が少ない所では、ごく小さい姿になって生き抜く強さも持っています。

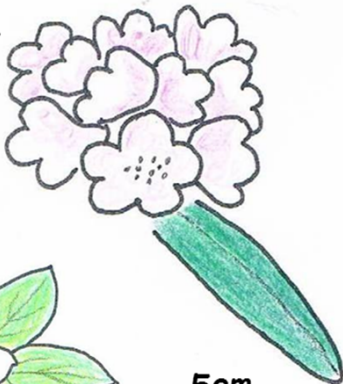
金峰山の登山道には、コメツガやシラビソ(別名シラベ)の林が広がっています。どちらも、本州中央部の2000級の山に生える木の代表です。

林の中 に 咲く花

ハクサンシャクナゲ

花は6～7月

つぼみは濃いピンク色ですが、花が咲く頃には赤みがほとんど無くなっています。



5cm

ゴゼンタチバナ

花は6～7月 秋に赤い丸い実をつけます

白い花びらのように見えるのは、「がく」が変化したものです。その中央に、小さな花がたくさん集まっています。

セリバシオガマ

花は8～9月

目立たない小さな白い花ですが、ふしぎな形をしています。付け根のところは筒形で、これが左右に分かれ、向かって右は鳥のくちばし、左は丸いうちわの形で、先端にはつまみがついています。進化の上で、何か都合のよいことがあったのでしょうか。

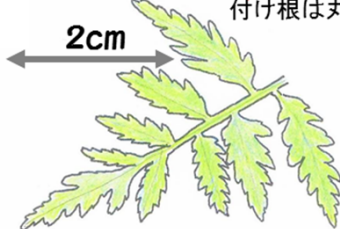
横から見た花

右側は鳥のくちばし？

左側は白いうちわ？

付け根は丸い筒

2cm



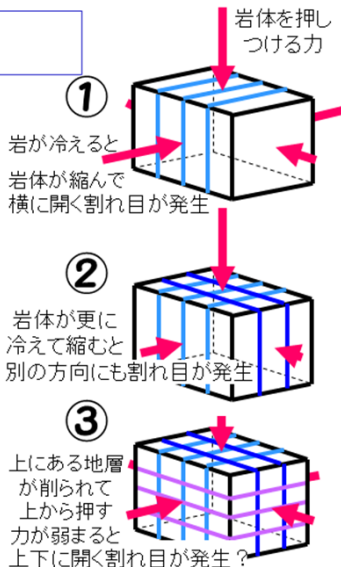
方状節理(ほうじょうせつり)とは？

地中の花こう岩を上方向に押す力のほとんどは、上にかぶさる地層の重さが生み出しています。温度が下がって花こう岩が縮んでも上から押される力は変わらず、その上下の縮みは、岩体がつぶれることでほぼつじつまが合わされると考えられます。

一方、花こう岩を水平押す力は岩体が冷えて縮むと小さくなり、やがて、横に押す力が一番小さい向きに割れ目が開くのを止められなくなりそうです。縮みが進むと、残された、水平に押す力が一番大きかった向きにも割れ目が開き、先にできたものと合わせて、直交する2方向に割れ目が発達することが考えられます。

その後、花こう岩をおおう地層が削られると、上から押す力が弱まって岩体がふくらみますが、同時に、地表から浅くなるので地中温度が下がり、その温度変化は岩体を縮ませようとします。差し引きして縮みの方が大きいと、今度は、横からの力に押されて上下に開く、水平に近い割れ目ができることが考えられます。

なお、地表や地表近くでは、地形などにも影響された割れ目ができることがあり、これは専門用語でシーティング節理と呼ばれています。



花こう岩などには、ほぼ直交する3方向(その一つはほぼ水平?)に割れ目が並んでいることがあり、方状節理と呼ばれます。それができる仕組みはまだよく分かっていないようですが、ここでは、マグマの温度が下がって固まった後、岩が更に冷えて縮むときにできた割れ目だと考え、想像してみました。

「百名山自然ガイド」は、山歩きの楽しみをいっそう大きくすることのお役に立たないかと考えながら、山の美しい自然をいつまでも大切にしていきたいと願う仲間で作成しています。四季の丹沢ほか、各地の案内を下記に順次掲示していきたいと思いますので、機会がありましたら、どうぞご利用ください。

<https://yama3823.com/100meizan/index.html>



左のアドレスのQRコードです

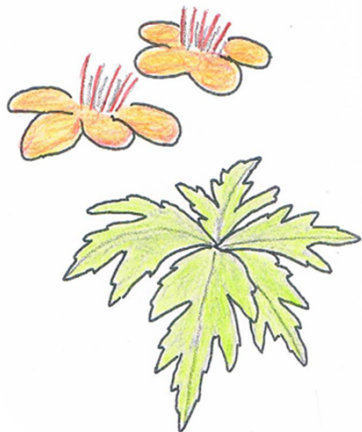
なお、いろいろ思い違いもありそうです。間違いにお気づきのときやご感想など、お寄せいただけると嬉しいです。 yama_3823@yama3823.com
(メール送付のときは、添付ファイルはつけないようにお願いできるでしょうか)

- 山では、ちょっとした不注意や判断ミスが事故につながります。
安全を心がけて、余裕のある計画を立てましょう。
- 登山者には、登山届を提出することが呼びかけられています。
予定のコースや日程を、入山前に届け出ましょう。
- 動植物や石をとったり、岩を欠いたりするには許可をとることが必要な区域が
広くあります。そうでない場合も、ありのままの自然を大切にしましょう。
 - ごみの放置は、生態系に大きな影響を与えます。
ごみは、各自で持ち帰りましょう。

山頂部に咲く花

キンバイソウ 花は7～8月

黄色い花びらのように見えるのは花の付け根を包む「総ほう」が変化したものです。花の中央につんつん突き出した細いものが、本当の花びらです。



キビナシャクナゲ 花は7月

上品なうすい黄色い花が、ハイマツの間に咲きます。

トウヤクリンドウ 花は8～9月

うすい黄色の花で、砂や石ころがあるような乾いた所に育ちます。



5cm

作成記録：主な変更点と資料紹介

- 2020年9月作成.
- 2021年3月1頁ほかの説明修正.
- 2023年10月文章など整理.
- 2024年7月ホームページ掲載.

資料紹介

- 『秩父山地金峰山における周氷河性岩塊斜面と森林限界の関係について』 清水長生・鈴木由告著、地学雑誌 103巻3号 1994年発行 286－294頁
(早逝された鈴木氏が力を注いだ金峰山の植生調査の結果を、地形との関係を交えて清水氏がとりまとめたもの。本ガイドブック作成にあたり、参考にさせていただきました。ネットで閲覧できます)。